

Press Release

【報道関係各位】

2019年10月28日

公益財団法人ポーラ美術振興財団

幅 2.5m の大作を含む、新作 6 点を展示
ポーラ美術館 佐藤翠「Diaphanous petals」展 開催
やわらかな光の表現に挑んだ新境地の絵画作品を初公開
会期：2019/12/15(日)～2020/4/5(日)



左: 佐藤翠《Diaphanous pink window I》2019, Glitter, oil and acrylic on canvas 194.5×259.3cm
右: 佐藤翠《Diaphanous pink window II》2019, Glitter, oil and acrylic on canvas 194.2×259.3cm
photo by Kenji Takahashi © Midori Sato, Courtesy of Tomio Koyama Gallery / Koyama Art Projects

ポーラ美術館（神奈川県・箱根町）は、現代美術を展示するスペース「アトリウム ギャラリー」にて、佐藤翠「Diaphanous petals（ダイアファナス・ペタルス）」展を、2019年12月15日（日）から2020年4月5日（日）まで開催します。本展は、佐藤にとって美術館での初個展となります。

佐藤翠（1984-）は、服や靴などのファッションアイテムがひしめくクローゼットや、装飾的な文様で覆われたカーペット、そして色彩豊かな花々を、油彩やアクリルで描くアーティストです。ドレスやハイヒール、花や果物など、一貫して女性的なモチーフにこだわりながら、正面観を意識した構図やコントラストの強い色彩表現、身体性を感じさせる力強い筆のストロークによって、独自の絵画表現を追求してきました。個展やグループ展での作品発表のほか、小説の装丁画や挿絵を手掛けるなど、活躍の場を広げています。

本展では、6点の新作を発表します。縦1.94×横2.59mにおよぶ《Diaphanous pink window I》を含む大作3点と、これまでも連作として描いてきた花やカーペットをモチーフとした小品3点です。

光溢れるショーウィンドウを描いた大作3点では、ガラス壁から自然光が差し込む開放的なポーラ美術館の展示空間にインスパイアされた佐藤が、閉ざされた室内を暗示する色彩表現を用いた従来の「クローゼットシリーズ」から一転し、やわらかな光で満たされた空間の描出に挑んでいます。かすれた筆跡や滴り落ちる絵具の線、油彩とアクリルが混ざり合うことで生じたにじみは、光のきらめきや反射、ハレーションのような効果を生み、鑑賞者の眼を心地よく刺激します。人工的に作り出された服を描きながらも、透明な花びら（= Diaphanous petals）が重なり合うような儂さを感じさせ、また規

則的な服の連なりが多彩な色の線となり、限りなく抽象的で軽やかな表現へと近づいていくのも、彼女の作品の魅力です。

2017年から翌年にかけてのフランス留学を経て、古典的なモチーフにも興味を抱くようになったという佐藤。本展は、ヨーロッパ滞在による作風の変化や、その成果をご覧頂ける機会となります。作品に人物が描かれることはありませんが、計算された構図の中で自立するショーウィンドウの衣服は、ポートレートにも似た存在感を漂わせています。また、花を描いた作品にも、装飾性と同時に静物画のような古典的な要素を見出すことができ、ヨーロッパでの生活が与えた影響を物語っています。

具象と抽象、現実とイマジネーションの世界とを行きつ戻りつしながら、絵画表現の魅力を追い求める佐藤の、新たな作風の展開にご注目ください。

■ 佐藤翠「Diaphanous petals」展 概要

現代美術の作家たちを紹介する HIRAKU Project*。第 10 回目となる今回は、ドレスやハイヒール、花、果実といった女性的なモチーフを、軽やかな色彩感覚や力強いストロークによって表現するアーティスト、佐藤翠をご紹介します。本展では、自然光の差し込む展示会場とも響き合うような、大型の最新作をご覧いただけます。



佐藤翠 《Bouquet of roses I》2019, Oil and acrylic on canvas © Midori Sato

【会 期】2019年12月15日（日）～2020年4月5日（日）

【会 場】ポーラ美術館 アトリウム ギャラリー

【作品点数】新作6点

【主 催】公益財団法人ポーラ美術振興財団

【協 力】小山登美夫ギャラリー

*HIRAKU Project：1996年よりポーラ美術振興財団が助成してきた若手アーティストを紹介する取り組み。会場となるポーラ美術館内の「アトリウム ギャラリー」を2017年10月にオープンして以来、様々な現代美術作品を展示しています。

佐藤翠（さとう・みどり）プロフィール

1984年、愛知県生まれ。名古屋芸術大学美術学部絵画科洋画コース卒業（2008年）、東京造形大学大学院修了（2010年）。平成29年度ポーラ美術振興財団在外研修員としてフランスに滞在。服や靴が整然と並ぶクローゼットや、四季折々の花や果物を油彩やアクリルを用いて描き、具象と抽象の間を揺れ動く装飾的な絵画表現を試みる。主な個展に「Glimmer of night」SCÈNE（東京、2019年）、「Bouquets」8/ART GALLERY/Tomio Koyama Gallery（東京、2019年）、「Orange glow」Green Flowers Art（パリ、2018年）など。2013年のVOCA展にて大原美術館賞受賞。東京在住。



【作家ウェブサイト】<https://www.midorisato.com/>

■アトリウム・ギャラリー次回展のご案内

「ケリス・ウィン・エヴァンス」展（仮称）

会期： 2020年4月23日（木）～11月3日（火）

協力： タカ・イシイギャラリー

作家プロフィール：

1958年、ウェールズ生まれ。ロンドン在住。映像作家として活動を開始。90年代以降、言語や知覚をテーマとして、ネオン管、音、鏡、花火などを用いたインスタレーション、彫刻、写真など多様な作品を発表。文学、哲学、映画、音楽、天文学や物理学など、多岐にわたる分野からの引用を手がかりにした、コンセプチュアルな作風で知られる。

近年の主な個展に、ピレリ・ハンガー・ビコッカ（ミラノ、2019年）、テート・ブリテン（ロンドン、2017年）、サーペンタイン・ギャラリー・ギャラリー（ロンドン、2014年）など。主なグループ展に、ミュンスター彫刻プロジェクト（2017年）、ヴェネチア・ビエンナーレ（2017年）、あいちトリエンナーレ（2010年）、森美術館「万華鏡の視覚」展（2009年）、横浜トリエンナーレ（2008年）他。



Cerith Wyn Evans
Forms in Space ... by Light (in Time),
 2017
 White neon
 Photo: Joe Humphreys / Courtesy
 Tate Photography

■同時開催 シュルレアリスムと絵画 ーダリ、エルンストと日本の「シュール」展 概要

2019年はシュルレアリスム誕生から100年の節目にあたります。フランスで誕生したシュルレアリスムは、理性の及ばない無意識の世界を表現することを目指して始まり、日本の絵画にも独自の発展を促しました。本展では、この100年におけるシュルレアリスムの変遷と、フランスから日本、そしてアメリカ、アジアへの広がりを約100点の絵画、版画などによってたどります。

【会 期】 2019年12月15日（日）～2020年4月5日（日）

【開館時間】 9:00-17:00（入館は16:30まで）

【休 館 日】 無休（展示替えのための臨時休館あり）

【所 在 地】 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原小塚山1285

【T E L】 0460-84-2111

【公式サイト】 <http://www.polamuseum.or.jp/>



古賀春江《白い貝殻》1932年（昭和7）
 ポーラ美術館蔵

■本件に関するお問い合わせ

ポーラ美術館 広報担当：中西、井本

TEL: 0460-84-2111 / FAX: 0460-84-3108

ポーラ美術館 広報事務局（プラップジャパン内） 担当：名取、屋木

TEL: 03-4570-8172 / FAX: 03-4580-9128 / MAIL: polamuseum.pr@prap.co.jp